

未来への地図

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗



建設業界の方々と ひとりを持つ信念、
長年お付き合いをさ 技術力に裏づけされ
せていただき、一人 た自信、仲間意識、
惜しまぬ努 力、明るさ、
意外なほど の純粋さ、
そして底知 れぬ優しさを
知ることが できますし
た。

マスコミ では、公共 事業や建設 業界の問題ばかりを クローズアップされ がちですが、
現場で働く ほとんどの 人たちは住 民の安全を 守り、生活 基盤を整え、 社会の発展 のために信 念を持って 仕事をしていること を私たちは忘れては なりません。

自然災害と建設業 ①

公共工事削減、価格の低減化、入札制度改革の中で生き残りをかけてもがき苦しみ続けている建設業界と、そこで汗水たらして地域住民のために働く人々を、われわれはもっと理解する必要がある、そこで働く人々

へ続く道を切り開いていく力を持ち、さらなる飛躍を実現していただきたいと願っています。

◆◆◆

砂防ダムです。コンクリートが人々を守りました」
たった2行の記事ですが、これまで黙々と地域を守るために仕事をこなしてきた村岡さん達の誇りが感じられてなりませんでした。

そして公共工事に携わる発注者、建設業者の人たちはどのような想いを持って仕事をしているのでしょうか。

今回の連載では、2012年7月九州北部豪雨の災害と復旧作業を振り返りながら、そこで復旧に向けて地域のために必死で対応をする発注者、建設業者の間模様も含めてつぶつてみたいと思います。

九州北部豪雨災害

コンクリートが人を守った

に感謝しなければならぬと考えています。

課長の村岡さんが写真とともにFacebookに投稿した記事。

さて、私達の生活に密着した公共工事ですが、地域住民からはどのように見えているのでしょうか。

公共工事というと、工事を計画発注管理する発注者、それを現実に造り上げる建設業者という二つの

立場が思い浮かぶと思います。

ところが、ここにはもうひとつ大切な立場の人々がいるのです。それは「地域住民」です。公共工事は「発注者」「建設業者」「地域住民」の三つ巴で成り立っていることを忘れてはなりません。

8月からの「未来への地図」 3面

8月からの未来への地図は、公共工事が生み出す地域とのつながりについて「自然災害と建設業」と題して連載する。建設未来フォーラム(大分市)の佐藤士朗代表が担当する。

同フォーラムは、公共事業の三方良しの実現を中心に全国で受発注者へのセミナー、実践指導を行っている。もともと原価管理の推進を行っていたが、コストダウンによる建設産業の疲弊に危機感を持ち、時間を効率的・効果的に使う全体最適を目指したプロジェクトマネジメントを公共工事の現場に適合させ工期短縮・利益向上など多くの成果を出している。

トマネジメントを公共工事の現場に適合させ工期短縮・利益向上など多くの成果を出している。



佐藤 士朗氏

今回の連載では、昨年の九州北部集中豪雨災害を通して住民目線から見た公共工事の在り方と取り組み事例を中心に紹介していく。